

福山の歴史と文化、
アートを愛する
心を育む3館の展示を紹介

文化ゾーンの 美術館・博物館へ おでかけしよう

JR福山駅の北口を出てすぐ。
「ふくやま文化ゾーン」は、
お城や美術館・博物館などが点在する、
歴史とアートが調和した
まさに福山の文化を醸成させるエリアです。
エリア内には6つの施設がありますが、
今回はその中でも代表的な3館を紹介。
現在開催中の展示を見て、
福山の歴史を学び、芸術を楽しみませんか。

ふくやま美術館

01 日本・西洋の近現代美術、 刀剣・茶道具も収集する美術館

3月23日(日)まで「神坂雪佳」展開催中

近代琳派と称される
芸術家の作品展

イタリヤを中心とした20世紀ヨーロッパの美術、郷土ゆかりの作家の作品、日本の近・現代美術を中心としたコレクションを展開している「ふくやま美術館」。刀剣をテーマにした人気シミュレーションゲームにも登場する名刀、国宝「江雪左文字」も所有しています。現在同館では、特別展「神坂雪佳―つながる琳派スピリット」を3月23日(日)まで開催中。学芸課

次長の中村麻里子さんに、見どころを聞きました。

江戸時代に花開き、日本古来の美意識に豊かな装飾性を加えた作風が国内外から高い人気を集める琳派。明治から昭和にかけて京都で創作活動を行った神坂雪佳(1866〜1942年)は琳派を研究し琳派スタイルの作品を手掛け、江戸中期に琳派の発展を担った尾形光琳の再来とも称されました。雪佳は画家のみならず図案家として染織から陶芸、漆芸、室内装飾、庭園など多岐にわたるデザインを手



ポスターにも採用されている「金魚玉図」は一幅の掛け軸。「金魚玉」とは金魚を入れて軒先に用したガラス容器のこと。ユニークな構図も斬新ですが、よきよきに立って表装で涼感を描くなど神坂雪佳の表現には目をみはるものがあります」と中村さん

掛け活躍したマルチアーティスト。本展では俵屋宗達や光琳をはじめとする琳派の潮流をたどりながら、雪佳が生み出した絵画や工芸品の数々をご覧くださいませ」とのこと。
同展では、図案家としての雪佳、雪佳以前の琳派の美、琳派に私淑した雪佳の絵画作品、工芸家としてのコラボで生まれた雪佳デザインの広がりも、4つのパートに分けて紹介。雪佳の代表的作品に加え、雪佳が手本とした琳派の美をうかがわせる本阿弥光悦、尾形光琳ら



の名品をあわせ、絵画・図案集・工芸品など約80件を展示しています。なかでも注目は、雪佳の実弟で漆芸家の祐吉との共作。「琳派ファンの方にっては、弟の陶芸作品に兄が絵付けを行った光琳・乾山兄弟が思い出されるのではないのでしょうか。」
古典と近代的発想を融合させ、美術と意匠の二つの分野を自在に行き来した「近代琳派 神坂雪佳」の世界にひたれる展覧会です。

Information

特別展 神坂雪佳―つながる琳派スピリット

【会期】3月23日(日)まで
【休館日】月曜日※2月25日(火)は休館
【観覧料】一般1,300円、
高校生以下無料

ふくやま美術館 福山市西町2-4-3

※同館2階には「ふくやま書道美術館」もあります



ふくやま美術館は、福山城公園とリンクする公園型美術館。正面に立つ「愛のアーチ」(高橋秀 / 1988年)がシンボルです。※写真提供=福山観光コンベンション協会

福山城博物館

02 西国鎮衛を任された 10万石の城が体験型博物館に

3月30日(日)まで、生誕300年「阿部正右」展を開催

郷土の偉人が遺した
足跡を詳細にたどる

福山城築城400年に合わせ、2022年に大規模リニューアルした「福山城博物館」。福山

城と福山藩主に特化し、近現代の歴史にスポットを当てた展示を行っています。「見る」だけでなく、史実に基づいた体験型コンテンツやクイズ、映像なども充実。「遊びながら学ぶ」新しい博物館です。

同館では冬季企画展「福山藩阿部家三代藩主 阿部正右―名門阿部家の礎」を、3月30日(日)まで開催しています。阿部正右は、今年で生誕300年。学芸員の血海弘樹さんによると、正右をメインテーマとした展示を行うのは今回が初めてのことだとか。「福山藩阿部家として初の幕

府老中となった正右。幕末に老中首座として開国問題を指揮した阿部正弘を輩出する名門阿部家の礎を築いた正右の活躍を紹介する展示です。」
水野家・松平家の後に福山藩主に就任した阿部家も有力な譜代大名でしたが、幕閣に登場したのは正右の父・正福の時。25歳で父の跡を継ぎ藩主となった正右は、奏者番、寺社奉行を経て京都所司代に転任します。「その後、老中となるのですが、正右が幕府内で出世するために行った努力のあとが多くの書状や覚書などとして残っています。武家のたしなみとされた書画なども展示しています。ぜひご覧ください。」

03

県立歴史博物館(ふくやま草戸千軒ミュージアム)

瀬戸内地域の民衆の暮らしと文化に フォーカスした博物館

明治から昭和の生活を
絵葉書からひも解く

「県立歴史博物館(ふくやま草戸千軒ミュージアム)」は芦田川の中州で見つかった中世の町「草戸千軒遺跡」の発掘資料などを中心に展示。神辺町が生んだ江戸時代後期の教育者・漢詩人、菅茶山の関係資料(黄葉夕陽文庫)なども収蔵し、瀬戸内地域の民衆生活と文化に焦点を当てた博物館です。

の広島県内の様子を伝える約250点を厳選。当時の風景や風俗、観光行事など、現代の様子と比較しながら見られるので、「懐かしい」と感慨深そうにお話してください。来館者もいます」と主任学芸員の木村信幸さん。「変わらない風景と変わってしまった景色から地域への理解を深めるとともに、葉書の通信文からうかがえる当時の人々の思い、生き方を感じてもらえたら」と話します。

Information

早春の展示 絵葉書にみるふるさとの近代

【会期】3月23日(日)まで
【休館日】月曜日※2月25日(火)は休館
【観覧料】一般290円、大学生210円、
高校生以下および65歳以上
無料

県立歴史博物館 福山市西町2-4-1
(ふくやま草戸千軒ミュージアム)



右写真とは対岸から見た仙酔島・弁天島の絵葉書(上は大正ごろ、下は昭和初期の手彩色写真)。「大きな帆を張った船が行き交う往時のにぎわいがしのべれます」。左写真は、空襲で焼け落ちる前の福山城が写る絵葉書

文/えるびん編集室 写真/編集室撮影、提供



学芸員・血海さんのイチオシは、正右所用の兜「鉄鎧地二十四間筋厳星兜 前立・鍔形」(個人蔵・3月2日までの展示)

Information
福山藩阿部家三代藩主 阿部正右
名門阿部家の礎
【会期】3月30日(日)まで
【休館日】月曜日
【観覧料】500円、高校生以下および
福山市・府中市・神石高原町
在住の65歳以上は無料
福山城博物館 福山市丸之内1-8

